
ハヤテのごとく！ 狙われた執事

sena

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ハヤテのごとく！ 狙われた執事

【Nコード】

N2453M

【作者名】

sena

【あらすじ】

あのハヤテが忍者に狙われた！？

ハヤテ達とズッコケ忍者の太郎のハチャメチャ劇

太郎はナギやヒナギク達に変装しておそってくるぞ

どうなるハヤテ！？

第一幕（前書き）

ハヤテのごとく！ 狙われた執事

第一幕

遙か戦国時代に武将達の手足となって暗躍達がいた、

それが「忍者」である。

そして平成の世になって、忍者達は人々からは伝説の存在と言われるが今も遠い山奥の集落で暮らしてる。

そこでは15歳になると一人前とされて日々厳しい修業に励んでいる。

「せい、はあ!!」

一人の少年が修行していた、彼の名は「太郎」

彼は里ではいつも失敗ばかりの落ちこぼれ忍者である。

太郎「・・・うまく行かないのでござるな」やっぱり拙者は落ちこぼれ忍者でござるな ハア・・・」

ヒューン トン!! うあ!?

いきなり飛んできたクナイに太郎はビックリしてしまった。

太郎「誰でござるか!? ・ ・ ・ん!」

太郎はクナイに付いてる手紙に気がつく

太郎「誰からでござるかな!?!」

あて先人は里のリーダー、里の皆から「親方様」と呼ばれている。

親方様からの手紙と聞いて太郎はびっくりした。

太郎「お、親方様から手紙!!」

恐る恐る手紙をみる太郎

ペラッ

太郎「何々、お前には三千院家の執事、綾崎ハヤテの暗殺を命ずる」

・・・えええ!!

ビックリする太郎

太郎「無理でござる拙者があの三千院家の執事、綾崎ハヤテ殿を暗殺できるわけがないでござる」

「親方様の間」

太郎「親方様、拙者には荷が重いでござる」

ヒュン・・

タタン!!

親方様は無言で太郎の前に手裏剣を投げた
それにびびる太郎

太郎「ひいゝ!!、直ちに出發するでござる」

そして・・・

太郎「ここが綾崎殿が暮らす町でござるか」

太郎「早速、綾崎殿の暗殺を・・・と言いたいでござるが長旅で疲れたし」

そう太郎は急いで来たので疲れいた、

太郎「何所か目立たない所を拠点にして今日は休むでござるか」

翌日・・・

太郎「ふわよく寝たでござる、雨風をしのぐには申し分ないでござる」

太郎「昨日寝る前に綾崎殿に関する人物や場所を頭にいれたし、さっそく綾崎殿が通う白鳳学園に」

つづく

第一幕（後書き）

始めましてsenaです
今後よろしくおねがいます

第二幕

太郎はハヤテが通う白鳳学院の門の近くのところまでひっそり身を隠していた

太郎「生徒が全員登校したら潜入でござる」

キンコンカーンコン

太郎「よし、裏門から潜入でござる」

なんとか無事潜入した太郎はハヤテのクラスの天井裏から様子をみた

「はい、みんな注目！！」

太郎「あの者は、生徒会長の姉で教師の雪路殿でござるな」

雪路「もうすぐ、白鳳演劇祭が始まるからウチのクラスは何したい？」

ハヤテ「お嬢様、その白鳳演劇祭で何ですか？」

ハヤテは主の三千院ナギに聞いた

ナギ「白鳳演劇祭とは、この時期になると各学年のクラスで劇をするんだそれでもっとも優秀な学年のクラスは金いっぱいづくに特別単位が支給される」

ハヤテ「金いっぱいづき……てすごいですね」

ハヤテは頭の中が宇宙だった

ナギ「そうか？私はどうでもいいが」

ハイ

手をあげたのは生徒会三人組の一人でこのクラスの委員長の瀬川泉である

泉「ハイ桂ちゃん、私は忍者劇いいな」

雪路「忍者劇ね」

それもいいな

声をあげたのは同じく生徒会三人組の一人でクラスの副委員長の花菱美希である

右に同じく

こちらと同じく生徒会三人組の一人で風紀委員の朝風理沙である

ハヤテ「忍者劇が面白そうですねお嬢様！！」

ナギ「何を言っておる、忍者と言ったらナ〇トに決まっているだろ」

雪路「そんじゃウチはのクラスは忍者劇で決定ね」

その話を天井裏から聞いていた太郎は

太郎「ゆ、ゆるさんでござるこんな者どもが忍者など気軽に言うよつて」

太郎はかなり頭にきていた、ここで血の雨をふらさず下校時に待ち伏せしてハヤテを暗殺を決めた

下校時

「へー、ハヤテ君のクラスは忍者劇かいいな」

話しているは生徒会長でハヤテと同じ学年の桂ヒナギクである

ハヤテ「そうなんですよヒナギクさん」

ヒナギク「でも以外ねナギも出るなんて」

ナギ「うるさい、ハヤテが出ると言うから出てやったのだ」

ハヤテ「ところでヒナギクさんのクラスは何をするんですか？」

ヒナギク「私のクラスは・・・」

その時

がさっ

太郎「綾崎ハヤテ、覚悟！！」

ブン！！

ハヤテ「うわわわ！！」

いきなりの太郎の攻撃になんとか避けたハヤテ

太郎「はずしたか」

ナギ「ハヤテ！！」

ハヤテ「お嬢様は離れてください、あなた誰ですか？」

太郎「お主に名乗る名などない！！」

再び切りかかる

ヒナギク「ハヤテ君！！」

太郎「手出し無・・・ぐほ！？」

ヒナギクの木刀で太郎を殴った

太郎「ちようとマ待つでござる」

あわてる太郎

ヒナギク「あなた誰！？、それにその格好忍者のコスプレ！？」

太郎「コスプレではないでござる本物の忍者でござる」
と否定する太郎

ナギ「いやどう見てもコスプレだぞお前」
とツツコム

太郎「だから違つでござる、ここは一時引くでござる」

ボーン

ハヤテ「き、消えた」

ヒナギク「一体どこにいったの」

- 負け犬公園 -

太郎「今回は真正面からやったのが失敗でござる」
反省していた太郎

太郎「ここは綾崎殿の親しい者たちに変装して情報収集や油断した
ところを暗殺でござる」

つづく

第三幕

― 太郎の隠れ家―

太郎「まずは練習でござるな　まずは誰に変装するか」

太郎「最初は」

ボーン

ハヤテ（太郎）「お呼びですかお嬢様」

太郎の姿があつとゆうまにハヤテに

ハヤテ（太郎）「中々そっくりでござるな」

ボーン

太郎「では次は」

ボーン

ヒナギク（太郎）「あつ　ハヤテ君おはよう」

あつとゆうまに太郎の姿がヒナギクに

ヒナギク（太郎）「うん！どこから見てもヒナギク殿でござるな拙者」

ヒナギク（太郎）「しかし・・・女子に変装するのはすこし抵抗感があつたが変装すればなんともないでござるな」

しばらく太郎はヒナギクの姿で鏡をじっとみていた。

ヒナギク（太郎）「ハッ!? ついヒナギク殿の姿にうつとりしてしまった ヒナギク殿恐るべし!」

ボン

太郎「練習はこれ位にして、早速綾崎殿を暗殺を・・・
ギュルルルル」

太郎「そういえば拙者、昨日から何も食べていなかったでござる」
太郎「まずは何か食べるでござるか」

「三千院家の屋敷」

マリア「忍者に襲われた!？」

このメイドさんはマリア、ナギには姉のようで母のような存在の人である

ハヤテ「本当ですよ!! 本当に襲われたんですよ」

ナギ「ハヤテの言うことは本当だぞマリア、私もヒナギクもその眼で見たぞ」

マリア「またトンでもないトラブルに巻き込まれたんですねハヤテ君（汗）」

マリア「確かにハヤテ君がウソを言う分けがありませんし」

ハヤテ「一体何者なんだろあの忍者」

マリア「!、そろそろ買出しに行つて来ます」

ハヤテ「待ってください！ マリアさん、外にでたら何時忍者に襲われるかわかりませんよ」

ナギ「心配するなハヤテ」

ハヤテ「どうしてですかお嬢様！？」

ナギ「あの忍者の狙いはお前だ」ハヤテ”！！”

ハヤテ「ええええ！？」

ナギ「大丈夫だハヤテお前ならあの忍者を螺〇丸で倒せるぞ！！」

ハヤテ「僕はそんな術はもってませんよお嬢様！！（汗）」

そのころ太郎は

太郎「そういえば拙者一銭も持ってなかったでござる」

太郎「こんな時、タダで食べられる所があれば・・・ん！？」

太郎「ここは三千院家の屋敷ではないでござるか・・・誰か出てくる」

太郎は茂みに隠れた

マリア「」

太郎「あれはマリア殿ではないか・・・そうだな」

太郎はどこからもなく吹き矢をだした

そして

プッ！！

プス！！

針はマリアの背中に刺さった

マリア「イタッ ああ・・・」 ドッサ！！

太郎「大丈夫でござる 麻酔を塗った針だから眠ってるでござる」

太郎は眠っているマリアを茂みに隠してそして

ポーン！！

マリア（太郎）「よし！これでどこから見ても拙者はマリア殿でござるな」

あつとゆづまに太郎の姿がマリアになった

マリア（太郎）「マリア殿には悪いが 御免！」

つづく

第三幕（後書き）

マリアに変装した太郎。一体何をするのか！？

第四幕

マリア（太郎）「マリア殿に変装すればキッチンで食べ物にありつけられるし、綾崎殿の暗殺も可能」

マリア（太郎）「早速屋敷に・・・」
とそのとき

ハヤテ「マリアさん！」

マリア（太郎）「ドキ！！、あ、綾崎殿！？まさか拙者の変装にきずいたのでは！？」
あせる太郎

ハヤテ「マリアさん、財布を忘れてますよ」

マリア（太郎）「へ！？」

マリア（太郎）「そうかマリア殿は買出しに行くところでござったか、ここはマリア殿に成りすますしかない」

マリア（太郎）「あらっ！？私としたことがうっかりしてました、すみませんハヤテ君」

ハヤテ「いいえ、やっぱり僕もついていきますよあの忍者がマリアさんにも襲ってくるかも知れませんか」

マリア（太郎）「心配せんでもいいでござるよ、狙いはおぬしだけでござるよ綾崎殿」

マリア（太郎）「私なら大丈夫でよ、心配しないでください」

ハヤテ「そうですか、では気おつけて」

マリア（太郎）「はい、では」

マリア（太郎）「・・・フー　なんとか切り抜けたでござる、暗殺と腹ごしらいの前にマリア殿のお使いをせねば」

ー三千院家の屋敷ー

ハヤテ「大丈夫かなマリアさん」

ナギ「ハヤテ！！」

ハヤテ「な、なんですかお嬢様」

ナギ「忍者劇のタイトルを考えたぞ」

ハヤテ「本当ですか、すごいですね！！お嬢様」

ナギ「聞いて驚くなよその名も・・・」

天の声「あまりにトンでもないタイトルためにカットしていただきます、どんなタイトルかはご想像に任せます」

ハヤテ「すいませんお嬢様、さすがにそのタイトルはちょっと・・・
（汗）」

ナギ「なぜだ！？なぜダメなのだ！？最高のタイトルではないか」

そのころマリア（太郎）は・・・

マリア（太郎）「えっと、買うものはこれでよし」

ー三千院家の屋敷ー

ガチャ

ハヤテ「あっ マリアさん大丈夫でしたか」

マリア（太郎）「はい、大丈夫でした」 タッタタタ

ハヤテ「やかっただー」

ーキッチンー

マリア（太郎）「ついに食べ物にありつけたでござる」
ギュルルル」

そのころハヤテは

ハヤテ「マリアさんが無事で本当によかったー」

ガツチャ

ハヤテ「ん？」

マリア「あのハヤテ君 私の財布を知りませんか!？」

本物のマリアがいた

ハヤテ「ああマリアさん・・・?ええええ!？」

ーキッチンー

マリア（太郎）「どれを食べるか迷うでござるな」

そのとき

ガチャ

マリア（太郎）「ん？」

そこには本物のマリアがいた

マリア（太郎）「マリア殿!?!なぜ!?! 眠っているはずなのに!?!」

マリア「あなた、誰ですか!?!」

マリア（太郎）「ぐっ・・・」

マリア（太郎）「・・・あ あなたこそ誰ですか!?!」

二人のマリアを見たハヤテは

ハヤテ「マリアさんが二人!!!」

マリア「私はの名前はマリアです」

マリア（太郎）「私の名前もマリアです」

マリア「真似しないでください!!」

マリア（太郎）「あなたこそ真似しないでください!!」

ハヤテ「見た目も声もそっくりだしどっちが本物のマリアさんなんだ!?!」

マリア「私が本物ですよハヤテ君!」

マリア（太郎）「いいえ、私が本物ですよハヤテ君!」

ハヤテ「一体どうしたらいいんだ・・・ん!?!」

ハヤテはある動く黒い物体を見た

ハヤテ「へそうだ」マリアさん達、あれをみてください!」

え!?! 言われるままに見てみたマリア達そして

マリア「・・・キヤーーーーー!!」ゴキブリ!!!!!!!!!!」

マリア（太郎）「え!?! ゴキブリ!?!」

ハヤテ「お前が偽者だ!!」

マリア（太郎）「しまった！！　くっ……ここは引くしかない」

ボン

ハヤテ「消えた……でもよかったですねマリアさん……」

パッシン！！

マリアにたたかれたハヤテ

マリア「ハヤテ君のバカ！！　早くあれを退治してください！！（泣）」

ハヤテ「すみません！！マリアさん」

ー太郎の隠れ家ー

太郎「食い物にありつけずに暗殺もできず無念」
ギョルルル

太郎「とりあえず、里からの仕送りをまつしかないでござるな……はあ」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2453m/>

ハヤテのごとく！ 狙われた執事

2010年10月10日04時39分発行